

平成22年度

優秀賞

平成22年度障害者雇用職場改善好事例

職場復帰にあたり、支援機関との連携により作業環境等を整備

株式会社 富士通ビー・エス・シー（東京都港区）

取り組みの紹介一覧

1. 医療・就労支援機関との連携により、社内の体制を整備
2. 障害特性に配慮した作業環境の整備

事業主の声

人事統括部 HRD推進部
総務統括部 仙台開発センター田中 優子 さん
齋藤 基 さん

佐藤拓哉さんは受障前からとにかく何事にも頑張る方でした。そのため、仙台開発センターの職場に復帰するにあたっては、社内においてもできる限り環境を整備して迎え入れようとの声が聞かれ、ご家族、病院、福祉施設、宮城障害者職業センターの支援と共に障害者雇用助成金制度等を利用しながら取り組みを進めました。

相談したいことがある場合は、窓口として、宮城障害者職業センターに連絡しています。宮城障害者職業センターは、各支援機関と連携しているので、連絡後には必ず支援者から適切な回答が返ってきたことから、安心感がありました。

佐藤さんは、上肢だけでなく下肢にも障害があり、車いすを利用されていることから、ビルのオーナーに協力を求め、トイレの手すり設置、事務所内のスロープ設置等を行いました。また、自分からすすんで休憩を取る方ではなかったため、長期的に勤務してもらうには、周囲が疲労面に配慮し、勤務時間や休憩時間の設定等にも考慮しながら復帰を進める必要がありました。



田中さん



齋藤さん

事業所の概要

昭和38年に設立され、ソフトウェア開発とソフトウェアサービスを行い、国内に複数の事業所を有している。多様性を尊重する企業として、障害者雇用には従来から積極的に取り組んでいる。障害のある人・ない人が共にいきいきと働ける環境づくりを目指し、在職障害者には定期的な面談機会を設ける一方で、社内に向けて障害の理解を促進するためのホームページを設ける等、相互の理解に努めている。

主な事業内容

ソフトウェア開発、ソフトウェアサービス及びソリューションの販売

上肢障害者雇用の経緯

システムエンジニアとして勤務していた佐藤さんが、脳出血により両上下肢機能障害となったため、職場復帰にあたり、リハビリを行った病院担当者と宮城障害者職業センターの障害者職業カウンセラー、ジョブコーチ支援を活用し、復職に必要な職場内の作業環境整備に取り組んだ。

上肢障害者雇用状況

■ 従業員数 1,999名

上肢障害者雇用数…………… 8名

社内体制
整備

ポイント

作業内容

改善策

1

医療・就労支援機関との連携により、
社内の体制を整備

課題点

佐藤さんの休職期間の終了時期がせまり、仙台開発センター内での受け入れ等について、作業内容、労働条件等の検討を社内で行っていた。しかし、本人の上肢等の障害状況に応じた検討が十分でなかった。



改善内容

宮城障害者職業センターの障害者職業カウンセラーに連絡し、職場復帰に向けた相談を開始した。佐藤さんがリハビリを行っていた医療機関、障害者福祉センター、ご両親とは障害者職業カウンセラーが中心となって相談を行った。その間佐藤さんは、障害者職業センターに通所し、相談や作業体験を繰り返した。それらの情報をもとに、**職場復帰するにあたっての配慮事項をまとめた文書を障害者職業カウンセラーが作成した。**その文書の内容は、職場復帰後に佐藤さんが従事する作業の遂行に必要な様々な配慮事項、事務所やトイレ等の職場環境整備が詳しく書かれたもので、その提案をもとに検討した。

そして、各支援機関、家族と連携し、スムーズに職場復帰を進めるために、社内の各部署の役割分担を決めて取り組んだ。

- 1 本社ビジネスサポート本部人事総括部長：復職に係る諸問題対応、勤務条件等検討
- 2 本社HRD推進部障がい者支援担当者：宮城障害者職業センターとの連携、職場内理解支援、障害者雇用助成金の申請等
- 3 仙台開発センター長：ご家族との連携、産業医と病院との連携
- 4 仙台開発センター総務部担当者：職場環境改善工事、業務遂行等に係る本社、各支援機関との連絡調整等

このうち②の役割において、社内のホームページ内に「障がいを知り理解しよう」のページを設け、脳血管障害の原因、内容、サポートについて記載し周知した。また、在籍している障害者（下肢、内部障害）が作成した車いす対応マニュアルを配布し、社内の理解を図った。



改善の効果

宮城障害者職業センターが作成した文書を基に進めることで、作業環境や勤務条件を整える際に試行錯誤をすることなく、スムーズに職場復帰を進められたため、事業所のコストや負担等が軽減された。

社内ホームページの活用は、障害に関する知識を得ることが比較的容易にできるツールであり、職場の従業員が佐藤さんとコミュニケーションを取る際のきっかけとなった。その後も、在籍している障害のある従業員の障害特性に関する記事を掲載しつつ、障害理解の啓発活動にも一役買っている。



社内ホームページでの啓発

従業員の声

仙台開発センター
佐藤 拓哉さん

職場復帰にあたって、上肢のことはもちろんのこと、自分の握力で車いすをこいだり、トイレを一人で利用できるよう、スロープや手すりをつけてくれる等、職場の環境が整備されたことで、復帰し頑張ることができています。これからも頑張りたいと思っています。また、毎日送迎してくれている両親にも感謝しています。



改善策

2

障害特性に配慮した作業環境の整備



課題点

- ① 佐藤さんの復職に向け、紙ベースの文書をデータ化してもらうため、専用のソフトと作業効率化のために高性能な小型のオートシートフィーダー付きスキャナを導入した。しかし、手指の震えから紙をシートフィーダーに挿入することができず、単独での遂行が困難だった。
- ② 手指の震えから通常のマウスでは、スムーズにスクロール、クリックすることができず、入力等の操作に支障が生じていた。
- ③ スキャン後、機密文書を鍵の掛かる机の引き出しに保管する必要があったが、握力が弱かったため、引き出しを開けることができなかった。
- ④ 疾病の後遺症のため、物が二重に見える複視が生じていることから、小さな文字が見にくく、読んだり確認したりすることに時間を要した。ディスプレイ上の表示を大きくし過ぎると、一画面に表示できる文字数が減り、文字を確認するためにスクロールする回数が増えることから、マウス操作が頻繁になり、作業効率の低下、上肢の疲労が懸念された。



改善内容

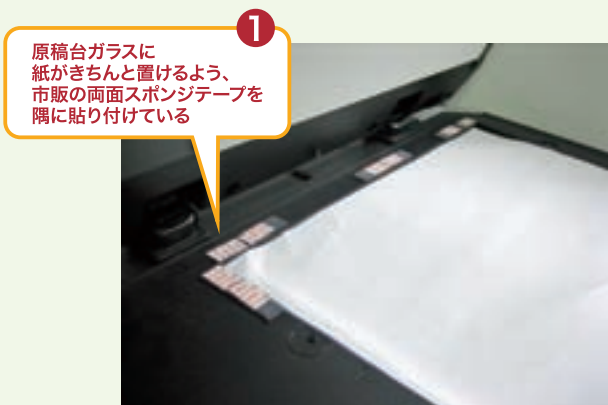
- ① 以前に使用していたフラット型のスキャナ(プリンター複合機)に戻した。原稿台ガラスに紙を置く際に、紙の置き位置が固定しやすくなるよう工夫する必要があり、市販のスポンジテープを所定の位置数カ所に貼り付けた。
- ② 手指の震えがあっても操作ができるよう、通常のマウスの代わりに高齢・障害者雇用支援機構の就労支援機器の貸出し制度を活用しトラックボール型マウスを導入した。
- ③ ジョブコーチと相談し、机の引き出しにリング状の取っ手を取り付け、自身で開け閉めができるようにした。
- ④ 障害者職業カウンセラーが事前に作成した配慮事項をもとに、モニターを17インチに拡大した上で、マウスの操作頻度も考慮しつつ一画面に表示できる文字数を1.5倍に抑え、見やすいフォントに変更した。



①
フラット型のスキャナ
を操作する佐藤さん



②
トラックボール型マウス
を操作する佐藤さん



①
原稿台ガラスに
紙がきちんと置けるよう、
市販の両面スポンジテープを
隅に貼り付けている



②

操作性
の改善

ポイント

スキャン
書類整理

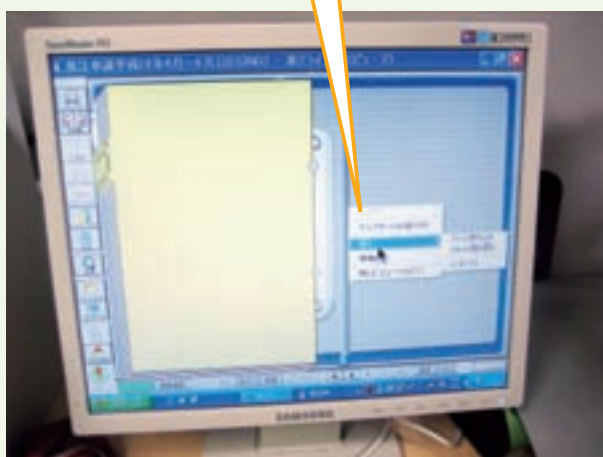
作業内容

引き出しに
付けた取っ手文字が拡大できるよ
う書見台にルーペを
取り付けている

4

文字の大きさや
アイコン等を通常の
1.5倍表示としている

4



改善の効果

- ① 古いスキャナを再度使用することは、作業の効率化の面からは逆行する面もあるが、手指に震えがあっても単独での作業遂行が可能となった。また、指導者の介助を必要としなくなったため、当該作業にかかるコストを抑えることができた。
- ② 手の震えによるマウス操作への影響がほとんどなくなった。作業によっては、左右の上肢を使い分けて操作している。なお、高齢・障害者雇用支援機構の就労支援機器の貸出し制度を活用したことで、購入前に操作状況等マッチングを確認でき、コスト面でも経済的だった。
- ③ 手指を使わないで引き出しを開け閉めできる構造のため、介助なく書類を保管することができた。市販の養生テープ等身近な事務用品を活用して作成したため、経費はほとんどかかっていない。
- ④ マウス操作時の両上肢の状態を考慮しつつ、文字やアイコン等の大きさを通常の1.5倍で表示することで、判別がしやすくなった。(これ以上大きくすると、1画面に表示できるデータ量が少なくなるため、マウスのスクロール操作が増え、作業性が低下することになる。)また、書見台にルーペを取り付けることで、両上肢がフリーになり、入力作業の効率が向上した。

最優秀賞

優秀賞

奨励賞

支援ツール

応募状況

応募要項

入賞事業所一覧

支援制度